

会 議 録

1 会議名

平成 28 年度第 5 回高土区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 雄志中学校の生徒との意見交換会について（公開）
- (2) 高土区の人口・世帯に関する基礎データの分析について（公開）
- (3) 自主的審議につなげるための高土区の現状分析について（公開）

3 開催日時

平成 28 年 9 月 7 日（水）午後 6 時 30 分から午後 8 時まで

4 開催場所

高土地区公民館 2 階 中会議室

5 傍聴人の数

2 人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：青木正紘（副会長）、飯野憲静（会長）、飯野正美、金子和博、小林トシ子
建入一夫、樋口義昭、日向こずえ、細谷八重子、横川英男、横山とも子
（欠席 1 人）

- ・ 事務局：中部まちづくりセンター 山田センター長、野口係長、小林主事

8 発言の内容（要旨）

【小林主事】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【飯野会長】

- ・ 挨拶

【小林主事】

- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 1 項の規定により、会長が議長を務

めることを報告

【飯野会長】

- ・会議録の確認：建入委員に依頼

議題（1）「雄志中学校の生徒との意見交換について」協議する。雄志中学校区青少年育成会議の担当者から、昨年度に実施して好評だった「雄志中学校の生徒と地域協議会委員との意見交換会について、今年度も実施したい」という話をいただいた。詳細について事務局に説明を求める。

【小林主事】

- ・資料No.1により説明

【飯野会長】

私は、高士中学校を卒業したが、委員の中には雄志中学校の卒業生も何名かいると思う。自分の出身校の生徒たちと話をすることは、今後の協議を進める上でとても良い経験になると思うので、今年度も実現させたいと考えているが、皆さんの考えを聞きたい。

【日向委員】

私は雄志中学校の第1回目の卒業生であるので、この企画に賛成である。

【飯野会長】

日向委員から賛成の声をいただいたが、高士区地域協議会として実施に賛成としてよいか。

（「よし」の声）

【建入委員】

私は今年度の実施について賛成だが、昨年度の様子が分からないので教えてほしい。

【飯野会長】

昨年度は初めてだったので、意見交換というよりは、委員から生徒たちへ質問を投げかけ、それに答えてもらうような形になっていた。また、60代や70代の委員が多かったので、生徒たちも緊張していた様子だった。

今年度は、高士区をはじめ津有区や諏訪区でも30代や40代の委員が増えたので、生徒たちも昨年度よりは気軽に話せるのではないかと期待している。

【小林主事】

昨年度は意見交換の時間が少なかったため、中学生が発表した「中学生まちづくり

ワークショップ」に対する質問がほとんどで時間がきてしまった。その反省を踏まえ、今年度はもう少し意見交換の時間を増やしたいと思っている。

【飯野会長】

開催までに時間があるので、中学生にどんなことを聞いてみたいかを考えておいていただきたい。

それでは、日程調整に入る。雄志中学校区青少年育成会議の希望日は資料に記載の通りである。他の区の状況や中学生の都合も勘案して最終的に日時を決定するが、高士区として都合の悪い日を把握しておきたいので、地域の行事などが入っている日が分かれば教えていただきたい。

— 日程調整 —

【小林主事】

補足させていただく。昨日、諏訪区と津有区の地域協議会が開催され、同じように日程調整を行った。その中で諏訪区は12月4日の午前中に地域行事が入っていると伺っている。

【飯野会長】

それでは、日程が決定したら事務局から皆さんへ案内するので多くの方の出席をお願いする。

次に(2)「高士区の人口・世帯に関する基礎データの分析について」に入る。自主的審議を進める上で、地域の人口や世帯数の推移について知っておく必要があると思う。本日は、資料に基づき事務局から説明していただき、高士区の現状を把握したいと思う。それでは事務局に説明を求める。

【小林主事】

- ・資料No.2により説明

【飯野会長】

説明を聞くと、想像以上に厳しい現状だと分かる。この話は次の議題にも関わってくるので、先に(3)「自主的審議につなげるための高士区の現状分析」に入る。はじめに事務局から資料の説明を受け、その後のフリートークの場面で、人口・世帯に関するデータ分析についての意見や感想等も話していただきたいと思う。

【小林主事】

- ・資料No.3により説明

【飯野会長】

委員の皆さんから作成していただいた「ワークシート」の内容を基にフリートーク形式で意見交換を実施する。意見交換では、皆さんが考える高土区の将来への願望やそれに対する課題についてそれぞれの考えをお話いただき、具体的に地域協議会として何ができるかを検討していきたい。

— フリートーク開始 —

○ 午後7時20分から7時55分までの35分間

○ フリートークの概要は下記のとおり

- ・清里区など他の区で、団地ができたことで若い人の人口が増えた例がある。高土区に団地を造る計画はないか、また団地を造るにはどうしたらよいか検討してはどうか。
- ・清里区の団地には中山間地の方以外に、市外などからも移住者がいると聞いたことがある。何が魅力で選んだのかを知りたい。
- ・団地について協議するには、市の考えや計画を知る必要がある。地元だけではどうにもできない問題である。
- ・13区はコミュニティプラザがあったり、補助金があったりと合併当初から優遇されていると思っていたが、先ほどのデータを見ると山間部の人口はこの50年間で半数以下になっている区が多い。行政に頼るだけでなく地元としてできる事を考える時期ではないかと思う。
- ・団地をつくることは難しいかもしれないが、高土区への移住者を増やすことはできるのではないか。実際に空き家に引っ越して来た方もいる。
- ・空き家を増やさない取組、入ってくれる人を見つける取組ができればよいと思う。
- ・資料を見て分かるように、20代と30代の方が増えないと高土区の人口維持は難しい。若い人が住みたいと思う高土区をつくっていく必要がある。
- ・地域活動支援事業を活用して、移住者を呼込む看板やチラシを作成した区がある。高土区でも参考にできるのではないか。
- ・移住者を増やすためには、「市街化調整区域」の問題がある。これについて勉強する必要がある。
- ・高土区はとても良い所だと思うが、その魅力を知らない人が多い。移住者を受け入れる立場の地元の方が「高土の魅力」を知り、移住者を受け入れる気持ちになるこ

とが大切だと思う。

- ・高士区を選んでもらうためには、「高士に住むメリット」が必要だ。テレビ番組で、若い女性が山間の集落に移住したという特集を見たことがある。その地域は若い人にとって何かメリットがあったのだと思う。高士区に住むメリットを考え、PRしてはどうか。
- ・岩の原葡萄園があることは高士区のメリットの1つだと思う。もっとワインやブドウをPRしたい。
- ・高士区には使われていない畑がある。例えば、無料で畑を貸し出すことができれば、農業に興味のある人は移住先として考えてくれるのではないか。
- ・他の区で、「お試し移住ハウス」を作ったと聞いた。高士区でも古民家や空き家を改修し、宿泊できるようにできないか。
- ・お試し移住ハウスと併せて、「高士区体験ツアー」のような企画を開催し、農作業や岩の原葡萄園の見学も取り入れることができれば面白いと思う。
- ・上越市のホームページで「構造改革特区」の取組を調べた。高士区でも活用できないか検討したい。
- ・地域でやってみたいことや協議したいことは沢山あるが、この中で優先順位を決めて1つずつ具体化していく必要がある。例えば、少子化対策に絞り、若い夫婦や小さな子どもがいる家族に引っ越して来ていただくためには何ができるかを考えるなど、テーマの絞り込みと絞り込んだ内容を具体化しなければいけない。
- ・協議会だけでテーマ設置をするのではなく、地域の方からも意見を出していただき、地域の考えを取入れながらテーマを絞り込んではどうか。

【飯野会長】

本日は、沢山の意見が出たので、そろそろテーマの絞り込みを行い、具体的に今年度は何をするかを決めていかなければ前に進まないと思う。

そこで、次回の会議までにもう一度ワークシートを見直し、どんなテーマが良いかを皆さんから考えて来ていただきたい。その考えを次回の会議で発表していただきながら、協議会として取組むテーマを決定したいと思うがよいか。

(「よし」の声)

- ・次回の協議会：10月7日（金）午後6時30分から 高士地区公民館
- ・会議の閉会を宣言

【青木副会長】

- ・閉会の挨拶

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-5111 (内線 1449、1547)

E-mail : chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。